



らくなちゅトーク

～魂を癒すピュアシナジーの秘密～

この繊細なパウダーに秘められた、
驚くべき癒しのパワー。
これからの私たちは、
目に見えるものが全てではありません。
目に見えないものこそ、
敏感に感じとらなければならないのでしょうか。
そんな私たちに気づきをもたらし、癒し、
本当の意味で目覚めさせる、
それがこのピュアシナジーからの
メッセージなのです。

人間が必要とする 栄養は、二つ。 一つは肉体的な栄養、 もう一つは心の栄養です。

中川信男(敬称略、以下中川) 早速ですが、このようなインタビュアーの機会をいただいたことに改めて感謝申し上げます。

さて、今日は、最近私が気付いたことが一つあって、そのことをベースにお聞きしたいと思います。

ミッチェルさんが『癒し』というときに、私が感じるのは、ミッチェルさんは三つの『癒し』を実践している人だということです。

一つ目は、他の人に対する『癒し』

二つ目は、社会全体に対する『癒し』

三つ目は、自分に対する『癒し』

これは、私の感じているところなので、ミッチェルさんの考えていること

とは違うのかもしれないのですけれども。

ミッチェル・メイ(敬称略、以下ミッチェル) 大変深い洞察をお持ちですね！

中川 ありがとうございます。では、今日はこの考えに沿ってインタビューすることで、一つのことを達成したいと思っています。それは、「このインタビューの記事を読んだ方が、『心の栄養』を手に入る」ということです。

なぜなら、ミッチェルさんは以前講演の中で、「人間が必要とする栄養は、二つある。一つは肉体的な栄

養、もう一つは心の栄養」とお話しされてきました。体の栄養は、最終的にはシナジーカンパニーの製品をみなさまにご利用いただくとして、心の栄養は、さまざまな話や知識から日々更新していく必要があると感じています。ですから、是非、「心の栄養」を、このお話の中から、読者のみなさまに得ていただきたいと思っています。

他の人に対する『癒し』

中川 最初に、「他の人に対する『癒し』」についてお聞きしたいと思います。

ミッチェルさんは、他の人へのフェイス・トゥー・フェイスなワークに、物理的限界を感じ、最近では中止されていると理解しています。その代わりに、ビジネスを通じての実践(プラクティス)にシフトされているとお聞きしました。

率直にお聞きしますが、ビジネスを通じてどのように「他の人に対する『癒し』」を実現しているのでしょうか。

意識の「目隠し」を外してゆく

ミッチェル まず、自分と世界との関係ということについて少しお話しした





Mitchell Moses May
(ミッチェル・メイ)

1950年アメリカ・ロサンゼルス生まれ。心理学博士。カリフォルニア州認定自然療法医プログラム修了。シナジーカンパニー設立者であり、最高経営責任者。突然の事故がキッカケとなり、心身に必要な植物の研究を始め、ピュアシナジーを開発するに至る。ピュアシナジーの工場は、100%風力発電で操業する、環境循環型の工場。著書に自伝的なインタビュー集『ミッチェル・メイ・モデル』がある。



中川信男（なかがわ のぶお）

1970年京都市生まれ。貧しい幼少期を経て、15歳の時に「この世には理不尽なことがありすぎる」と気づいてから、平和運動や労働運動に傾倒。26歳で南インドでの超自然出産で授かった子がアトピー性皮膚炎であったことから、世界の自然療法に引き寄せられ、自然食やホリスティック医学を自学し、1998年プレマ事務所を設立。以来、人生や健康に関する相談が途切れることなく続き、現在に至る。

と思います。

ほとんどの人は、自分の考えや意識が、「自分自身の外側に向かって」大変集中している、といえるのではないのでしょうか。世界とは、「自分の外側」、もうそれしかないのだと信じています。競走馬が、目隠しをされて前しか見えない状態で走っている。多くの人が、そんな状態です。目隠しでどんどん隠されて、命や人生というものが、狭い範囲でしか見えなくなってしまうのです。

だから、たとえ素晴らしい贈りものを与えられたとしても、それが見えないわけです。なぜなら、ものの全体が見えていないからです。

人間が癒されるというとき、『目隠しを外す』ということがとても大切なプロセスになると思います。

私を含めて普通、ほとんどの人は、そのプロセスの途中にあるといえるでしょう。つまり、人は、目隠しをはずそうと自然に努力しているわけです。そして、少しずつ、少しずつ、目隠しはよりオープンになっていくのです。

そうなれば、さらに人生における素晴らしいことを見て、体験するこ

とができます。世界中のさまざまな宗教で教えようとしていることは、それぞれ言い方は違いますが、まさにこのことではないかと思えます。

ただし、他の人の目隠しを外していくためには、まずは自分自身が「目隠しを外す」という経験をしていなければなりません。自分自身が経験してはじめて、他の人がその目隠しを外していくためのお手伝いができるのだと思います。

人間や世界の本来の姿が見えてくる

ミツエル 植物が光をブロックされると、十分な心の栄養を受け取ることが出来ない点は、人間も似ています。目隠しをせずに、他の人々や世界を見たとき、その存在感に、圧倒されそうになります。そこには、経験したことのないような美しさや、存在感や、エネルギーがあるのです。そして、そのようなものを見方を始めると、世界の見え方が明らかに変化していきます。あらゆる人の中にある、「本当の姿」が見えてくるのです。

目隠しというものは、さまざまな個人的経験の結果、できあがっています。

それは、
一人一人の中に『完全性』があり、
一人一人の中に『全体性』を見る
という経験です。

文化、教育によって作られたものがあります。失望によって生まれたもの、家族や友人から受けた、さまざまな傷によって生じたものもあります。

目隠しをつけた状態で他の人を見ると、『問題』ばかりが目につきます。あっ、この人はどこそこが違っているのだと、違っているところだけが目に見えてしまいます。そして、違いにのみ注目して、その人を批判してしまう傾向があるのではないのでしょうか。

でも、目隠しを外したとき、つまり見えている範囲をぐっと広げたとき、他の人がそれぞれもっている個性が見えてきます。同時に、その人の「本当の姿」が見えてくるのです。それは、一人一人の中に『完全性』があり、一人一人の中に『全体性』を見ることが経験です。日々の生活や考えることに忙しくしている人の中には、そういったものが見えにくくなっているかもしれません。しかしそれは誰の中にも、確実にあるのです。

その経験はまるで、長いあいだ水をあげていなかった植物が水を与えられたような状態です。水を与えるというのは、「見る」ということです。水を与えられれば誰かが水を与えていない

ことに気付いたとき、その植物は命を取り戻すことが出来ます。

他者の全体性を「見る」、それは見た人にとっても見られた人にとっても、一つの「出来事」になります。そして、命を救われた植物は植物本来の存在である、「花であるということ」を実現し、その花を開きはじめるのです。

「肚の眼」で見ること

ミツチエル しかし、いまお話ししたことは、普通の「眼」ではなかなか見ることが出来ません。「心の眼」、または「肚（はら）の中心にある眼」で見なければなりません。この「心の眼」「肚の眼」で見れば、花の部分を、まっすぐに見ることが出来ます。

マインド、つまり「意識」は、批判や判断をしやすいものです。「眼」もマインドの一部なのです。これに対して「肚」の部分は、批判せずに、ただ、事実を認識します。もちろん、眼というのは素晴らしきものです。いろいろなものを見ることが出来ます。でも、全てが見えているわけではありません。眼に見えないものは、普通は見えません。だから、私たちは

眼で見る事が出来ないものを「肚の眼」で見る訓練が必要なのです。

私にとって「仕事」「ビジネス」というのは「目隠しを外す」訓練に他なりません。プライベートな時間で行う瞑想と祈りも「目隠しを外す」大きな助けになっています。

難しい哲学、芸術あるいは、技術を学ぶときはいつもそうですが、先生の存在は、とても大切です。先生は、あなたに教えてくれるわけです、あなたの「意識」について、あなたの「目隠し」について、または、あなたの「目隠し」について。

自分自身のチューニングを保つということ

ミツチエル 私はビジネスマンですから、知的な「眼」を通して、世界を見る必要にも迫られています。日々、物ごとの判断をしなければならぬ立場であるわけです。何が正しくて、何が間違っているのか、何が良くて、何が悪いのか。

人というのは、繊細な楽器のようなどころがあります。楽器を慎重にチューニングする、調律するのはとても大切です。例えば、自分はいま、難

周りからどんな影響を及ぼされたとしても、
自分自身は、正しくチューニングされていて、
整えられた音が出せる状態を
保つことが重要です。

しい環境におかれているとか、楽器でいえば、乾燥しているとか、暑すぎるとか、寒すぎるとか……状況に合わせて調節していかなければなりません。

誰もが知っている通り、人生は、簡単ではありません。毎日生きるだけで大変なことなのです。さまざまなことが起きていて私たちはそこから知らず知らず影響を受けています。なかには、大変難しい、困難なこともあります。だからこそ、日々の努力と実践が必要なのです。

周りからどんな影響を及ぼされたとしても、自分自身は、正しくチューニングされていて、整えられた音が出せる状態を保つことが重要です。

体、心、魂、そして「本当の自分」に、どのようにチューニングしていいかわからない、そんなときは、いろいろな影響によって、前に後ろに揺り動かされてしまいます。この状態では、人生の雑多なことを感じたくないために、さまざまな経験を避けようとする傾向があります。その人は逃げなくてもよくなる状態、すなわち「チューニング」された自分を知らないから逃げようとするわけです。それは、理解できることではあります。それが、それでいいという



困難に直面しているという現実はその人にそれを乗り越えることの意味を教えようとしているからなのです。

のは、その人の助けになることではありませぬ。

困難に直面したとき

ミッチェル 私が人々に伝えたいと思っているのは、どのようにして自身をチューニングするのか、ということ。そして、自分自身の調子を整えることによって、周囲でどんなことが起きていようが、どんな困難な環境にあるかが、現実には直面することが出来るようになる、ということなのです。

私自身も、困難な経験をしたとき、最初は「こんなことが起きなければ良かったのに」と思いますが、そこで深呼吸をするようにしています。そして、その困難な経験に向かって感謝するよ。心からありがとうというのです。より多くの学びをもたらしてくれるこの贈りものに、「どうもありがとう」と。「どのようでしたら、この経験を生かしてゆけるかを学ぼう」と、その機会に感謝します。

困難に直面しているという現実はその人にそれを乗り越えることの意味を教えようとしているからなのです。

誰もが誰かを癒せる力を持っている

中川 とっても、奥深いお話だと思います。

最近、いろいろな人を観察してわかったことなのですが、「自分には人を癒すなんてことは決して出来ない」と思っている人がたくさんいることに気づきました。そういう思い込みを持っている人が、意外とたくさんいるのです。

例えば、家族が病気だとか、子どもがおかしくなっているとかが、友人が体に痛みを抱えているとか……でも、「自分はそれを癒すことが出来ない」と。

しかし、ここ最近、私が強く感じているのは、誰もが誰かを癒せる力を持っているということなのです。「自分は人を癒すことができない」という思い込みも、ミッチェルさんがおっしゃった「目隠し」のひとつだと思っております。

ミッチェル その通りですね。

中川 一時期、新型インフルエンザが流行っていたとき、多くのお母さんた

ちが、すぐに子どもを病院に連れて行かなければ、大変なことになると、とても焦っていました。実際には、お母さんが病院に連れて行く前に、できることはたくさんあると思いますし、場合によっては、お母さんの態度の変化が子どもの状態を落ち着かせることだってできる場合もあるのにも関わらず、です。

そんなふうには、「自分は癒しができない」と感じている人、もしくは、その「目隠し」があるのがわかっていて、その取りかたが分からない人に、アドバイスをいただけたらと思います。

本質を伝えるということ

ミッチェル しかし、人へのアドバイスというのは、とってもデリケートなことですね。なぜならば、人は誰もが自分なりの、その人なりの「自分の考え」を持っているからです。他者へのアドバイスも、ときとして助けになりますけれども、本質にたどり着くためには、もっともっと深く考える必要があります。

世界中には宗教、哲学、思想、芸術などさまざまな「偉大なる教え」があります。すべての教えにとって、そ

真実をそのまま、薄めないで、
他者に伝える、それを実践出来る人々は
そう多くはないのです。

れをどのようにして伝えていくかが、
難しいテーマであるように思います。
どのように伝えたら、相手が深く
理解し、動くのか。単に、思考とか
頭の中だけのレベルに留まってしまう
と、相手に変化を起こすには、不
十分です。だから、歴史上の「偉大
なる先師たち」は、常に大きな試練
を抱えてきました。

若かった頃、私はブッダの人生、ブッ
ダの教えについてずいぶん学びました。
ブッダが、どのようにしてその理解や
認識に到達したのか。また、それをブッ
ダ自身はどのように他の人たちに伝え、
他の人たちが苦しみから解放されたの
か、ということについて学びました。
彼の到達した理解というのは、とて
も奥が深く、かつパワフルであったの

で、彼の人生は根本的に変わってし
まったのです。そして、彼は、他の人
たちにも同じ経験をして欲しいと願っ
たのです。しかし、それは簡単なこと
ではないと気づいたのですね。
同じような問題に直面する精神的指
導者は少なくないと思います。
そこでその指導者の真偽が問われる
のです。自分で悟ることよりも、そ



れを広く他の人々に伝えることの方がずつと大変なことだからです。真実をそのまま、薄めないで、他者に伝える、それを実践出来る人々はそう多くはないのです。本当にしばしば、その教えそのものが薄められてしまつて、多くの人々にとって分かり易いだけのものになつてしまつてはいることは少なくありません。

もしくは、その教えがマジック、魔術のようなものになつてしまつたり、何かの儀式をすれば、すべてが完璧になる、というふうになつてしまつても多々あります。

それが、美しくないとか、良くないとか言つてゐるわけではありません。でも、儀式的部分を、まるでマジックのように、魔術のように扱つてしまつと本当に大切な部分を逃してしまひます。

生命力のエネルギーを感じる

ミッチェル 目隠しなしに物事を見たときに、実は、生命力のエネルギーというか、スピリットのエネルギーというものが、ありとあらゆるところに存在していることに気が付きます。

ちよつと奇妙に聞こえてしまつても

しれませんけれど、私の経験するありとあらゆることは、私に「栄養」を与えてくれているのです。もちろん、私は、ピュアシナジーも飲んでいますが、れどね。(笑)

それらの生命力のいくつかは、植物に閉じ込められています。ピュアシナジーの秘密の一つは、私たちがどのようにして、植物の生命力をビンに閉じ込めているのか、そしてそれをどのように保つのかにあります。ピュアシナジーを飲むと、その人の中に植物のエネルギーが解き放たれて、その人自身が元気になる、同質のエネルギーは芸術に感じることも出来ます。芸術家と呼ばれる人の中にはエゴを表現したいだけの人もいますが、それは、私から見ると真の芸術家とはいえません。

真の芸術とは、生命の秘密がそこにとらえられているものです。音楽であり、絵であり、彫刻であり、また、いま、中川さんが私にくださった美しいプレゼントもそうです。そして、私にとっては本物の日本庭園もそうですね。私は、そのような豊かなエネルギーにふれる時間を持つように、とお勧めしたいと思います。例えば、美しい音楽を味わう、美しい絵画・彫刻に触れ

る、美しい京都で過ごすとか。また、「生きていく」食べ物を食べる、ゆつくりと瞑想する、さらに、自分とは異なつた在り方、違つた生き方を示してくれる本を読むこともお勧めです。

学び続けることではじめてより深い理解が得られる

ミッチェル 突然、素晴らしいスポーツマンになつたとか、突然、素晴らしい芸術家として開花したとか、はじめて書いた物語がベストセラーになつたとか、ときには、そういう話も聞きますよね。もちろん、そういうことでもありますけれど、それは本当に珍しいことです。それにも関わらず、多くの人たちが自分もそうなら良いなあと期待しています。でも、私も含めて、ほとんどの人は一歩ずつ学びながら進歩していくのです。

例えば、バイオリンや尺八を習い始めるとき、当たり前ですが、時間をかけなければいけませんよね。練習しなければいけませんし、間違ひも起きます。そうすることではじめて、より改善し、深く理解することが出来ます。

多くの人が、一夜にしてエキスパートになりたい、とそう望んでいます。

ピュアシナジーの秘密の一つは、
私たちがどのようにして、植物の生命力を
そこに閉じ込めているのか、
そしてそれをどのように保つのかにあります。

私自身は、この道を歩くようになってから約40年です。その長い年月の間、

さまざまな深い学びがあつて、いまの私になりました。確かに、物事がものすごく早く進んだときもありました。

短時間で多くを学ばなければならぬ時期もありました。しかし、また別のときには、何度も何度も限界に頭をぶつけて、乗り越えるのに何ヶ月も必要だったという時期もありました。ですから、私は楽な近道を知りません。

私たちは勇気を持たねばなりません。目隠しを外そうとするとき、必ず困難に直面します。目隠しをちよつと開けたとき、真つ暗いところから、突然太陽のまぶしいところに引き出されると、目が痛くなります。そして少しずつ明るさになっていきます。

例えば、癒える途中でひざが痛かったとしましょう。一歩進もうとする毎に痛い。しかし毎日、少しずつ少しずつプレッシャーをかけて歩いていくうちにだんだんとよくなっていくのです。学ぶことも、同じです。でも、中にはそうするのはちよつと辛い、だからやりたくないという人もいます。友人、家族、子供たちに励まし続けていただきたいのはここです。学び続け

ること。成長し続けること。それを止めないこと。

誰もがみんな 学ぶことができる

ミツチエル 私は、人を力づけるのが好きです。けれども、そのやり方は相手によって全く異なります。穏やかで優しくすることが良い人がいます。一方で、厳しくしたほうが良いという人もいます。ときにはある力強さで背中を押されたり、方向性を変えてもらう必要のある人もいます。でも、何よりも大切なのは実行すること、人の話を聞くだけでなく実際に体を動かすこと、実行し続けていく、練習し続けていくということが大切なのです。

自転車の乗り方を学ぶとき、最初は興奮しますし、怖いと感じます。そして、たいてい何らかの怪我や事故を経験します。誰がなんと言っても、どんなアドバイスをくれたとしても、あまり役に立ちません。というのは、頭で考えて自転車に乗るわけではないからです。

でも、ひとたび自転車の乗り方を学んだら、突然、その方法はわかりやすい。体の中にそれを感じて、そして、

学び続けること。 成長し続けること。 それを止めないこと。

乗ることができ、人によっては手放しで乗ることさえできるようになります。

人としての成長の道は、自転車の乗り方を学ぶこの過程と似ています。最初は、とにかく、どうして良いかわからない、やり方がわからないという風になりがちです。自転車の乗り方を誰かに覚えさせるのに、いきなり急な坂道を下れとは言いませんよね。人生も同じです。これが出来たら次のレベル、それが出来たら次のレベル、また次のレベル……というようにしていきます。人生は、レースではありません。大切なのは、どんなペースであれ、自分出来る、ということを学ぶことです。

例えば、数学はとても簡単だという人もいれば、すごく難しいという人もいます。しかし数学の出来不出来によつて、その人がいい人だとか、悪い人だとかいうことにはなりません。また、歴史的な年号や、出来事などを暗記するのが得意な人もいます。どんな分野であれ、それが他の人より容易にできるという人はいます。しかし、得手不得手に関わらず、誰もがみんな、数学を学ぶことはできます。

「本当の自分」についても、誰もがみんな、学ぶことができるのです。

社会に対する『癒し』

中川 次の質問は、「社会に対する『癒し』」についてです。

もしかしたら、それは、地球あるいは、宇宙に対する癒しということも出来るかもしれません。

「社会に対する『癒し』」というのは、ミッチェルさんの中では、いまのシナ

ジーカンパニーのビジネスを通じて、実現されていることなのかもしれません。

また、違う組織であれば、社会的な貢献をすることが「社会に対する『癒し』」といえるかもしれません。そこで、ミッチェルさんの「社会に対する『癒し』」ということについての考えをお伺いしたいと思います。

ミッチェル 私は、それを最も重要なことのひとつだと考えています。

社会はいま、病んでいます。それは、紛争、差別、偏見という現象として私たちの前にあらわれます。あるいは経済的な破綻やお金をめぐる個人の不安、環境破壊なども「社会の病い」の象徴です。それは人間にたとえていうと、不摂生がたまった症状と似ていま

す。

私たちは、そこをケアしないといけません。身体的な不調であるとか、病気であるとか、それは、ライフスタイルの面で何か変化を求められているということです。私たちが、本当の意味で、社会の中で癒されていくことは、今のまま十分ではありません。私たちが自身が何らかの変化をもたらさなければならぬときに来ている。

私がビジネスを始めた本当の理由は、こうした問題に少しでも役に立ちたいと思ったからです。例えば私が個々の人のためにだけに時間を使ったとしても、その人たちは、また、健全ではない社会に戻って行ってしまいます。そうすると、私は、本当の意味では助けになっていない、ということになります。そこで、私は、社会のために、何か別のこと、違う角度から何かをしなければならぬと思ったのです。

シナジーカンパニーの土台となるもの

ミッチェル 私が、シナジーカンパニーを始めた頃、私たちの基盤となっていた考え方、それは、当時のビジネス界には全く相容れないものでした。

私たち自身が
何らかの変化を
もたらさなければならぬ
ときに来ています。



すべての原料はオーガニック（無農薬・無化学肥料）でなくてはいけない、保存料や殺虫剤などの化学物質が使われていない物でなくてはいけない、と私がいったとき、当時のビジネス界では、とても不思議に思われました。

私が、オーガニックでなければいけないといったのには、いくつか理由があります。私は、できるだけ多くの人に化学物質に汚染されていない本物を食べて欲しいと思いました。

しかし、それ以上にもっと大切なことがあります。私は、地球のためにも、化学物質を使わないようにしたいのです。

農作物を育てる過程で水に含まれた化学物質は雨となり、土壌に染み込み、世界中に広がるからです。そうなる水が私たちにとって安全な飲み物ではなくなります。もし、化学物質が世界中に広がってしまうと、動物や鳥たちも、病気になるます。また、化学物質を使って、農作物を育てる人たちにも、安全ではなくなってしまうます。

そう話をしたときに、みんなから笑われ、バカだといわれました。誰もそんなことには興味を持たないだろうと。私たちは当時、すべてオーガニックで

いくと決めた、唯一の会社だったので

す。日本の状況はわかりませんが、アメリカでは現在、飲食産業において、オーガニックの分野は、最も高い成長率を見せています。いまでは、超大手の会社ですが、その分野に参加を望んでいます。私にとっては、これはとてもうれしいことなのです。本当に小さかった、シナジーというアイデアが、いまは、とても大きくなっていくわけですから。

オーガニックの他に、もう一つ、同じようなことがありました。私が、工場のための電力はすべて風力発電と太陽光発電でまかないたいといったことです。これらの設備を作る費用は、非常に高い。多くの人がいったものです。ミッチェル、この考えは完全に間違っている、と。

しかし、見ていただきたいのは、いまやアメリカ全体が、風力発電や太陽光発電によるエネルギー問題の解決法を考えている、という事実です。国全体の需要に応えられる風力発電の装置を作るかどうかを検討しているわけです。本当に小さなアイデアが大き

く進展していったのです。私たちの試みは小さいのですが、一

私たちの試みは小さいのですが、
一つの基本のモデルになってくれると
願っています。

つの基本のモデルになってくれると願っています。また、そのモデルは持続可能であることも大切なポイントです。もし、シナジーカンパニーのビジネスモデルが持続、発展していなかったら、他の企業はそんなに興味を持たなかったと思います。

ビジネスの世界で

ミッチェル あるアイデアが、「変化」という意味では素晴らしいのだけれども、ビジネスとして見たときには役に立たないということは多々あります。アイデアがビジネスとして現実的になったときはじめて、他の企業にとって興味深いものとなるのです。大企業が試してみるだけの興味深いものとなるのです。

現在私は、社外取締役として、非常に大きな会社の会議に参加することがあります。シナジーカンパニーの何百倍も大きな企業ですね。多くの企業が、社内だけでは本当に大きな変化を起こしていく力がないと感じています。変化が起きるためには、フレッシュな人、何か新しい、いままでとは違った視点が必要なのです。

幸せになる秘訣は働くこと

中川 先程 ミッチェルさんの社会に
対する癒しが、ビジネスにつながって
いる、それが重要だというお話を伺っ
たのですが、少しずつ、視点を社会の
ほうから、「自分」の方にもずらして
聞いていきたいと思えます。

ミッチェルさんは、以前、講演会で、
幸せになる秘訣は、働くことだとおっ
しゃっていました。私は、それについ
て思いついたことがあります。

先日、日本の新しい首相が国会の演
説で、あるお坊さんの言葉を引用して
話をしたのですが、そのお坊さんによ
ると、人間の幸せは本質的に四つしか
存在せず、その四つとは、

一つは、愛されること

一つは、ほめられること

一つは、人の役に立つこと

最後は、人から必要とされること

そして、愛されること以外の三つは
すべて働くことによって得られる。だ
から、人間が幸せに暮らすためには、
まじめに働くことが重要だ、という話
でした。

ミッチェルさんも、まじめに働くこ
とが幸せになる秘訣だとおっしゃった

私が「働く」といっているのは、
生きている目的が、ある行動を促す、
ということです。

のですが、それを聞いて理解できた
人とできなかった人がいました。こ
のことについてももう少しお聞かせい
ただければと思います。

ミッチェル 多くの方が「働く」と
か、「仕事」とかいうと、一つの職業
のことだと考えておられると思いま
す。でも、そう考えてしまうと、仕
事ということの理解が、かなり限定
されてしまつて思つのです。

例えば、母親業あるいは主婦業を
思い浮かべてみてください。これ以
上に偉大な仕事はありません。

そのお母さんが、他に仕事を持っ
ているかどうか、彼女がずっと家に
いるかどうか、そんなことは関係あ
りません。ここで、「働く」というこ
とと、その人が持っている「仕事」
というものが違うということを理解
することが大事です。

いま、中川さんがお話しになつた
お坊さんのお話に似ていますけれど
も、人間には生きている目的が必要
なのです。私が「働く」といってい
るのは、生きている目的が、ある行
動を促す、ということなのです。

それは、庭で作業をするという意

味の「働く」かもしれません。レスト
ランのトイレ掃除をすることもしれ
ません。皿洗いをすることもしれま
せん。あるいは、大企業を経営するこ
とかもしれません。しかし、それは家
族をケアし子供を育てることかも知
れないのです。さらに病いの日々を生
きる、それも「働く」ことに他なりま
せん。「働く」ことは人生を豊かにし
ます。

「豊かな」というのは、必ずしも社会
的評価、金銭的な意味ではありません。
とても意義があるという意味での「豊
かさ」です。もしかしたら当人は「豊
かさ」を実感することが出来なかつた
としても「豊かな」人生を生きている
人は他者を幸せにします。

会社と社員と幸せ

ミッチェル CEO(最高経営責任者)
としての私の責任の中に含まれるのは、
シナジーカンパニーの会社の雰囲気作
り、どのような仕事をしていても、意
味がある、価値がある、貢献している
事業体の一員なのだと感じられるよ
うな、場を作ることだと思います。

最も献身的な社員、その人が最高の
社員なのです。彼らは良心によって働



目的が本当にわかっているとき、
真実の目的を持っているときには、
自分だけでなく、他社や未来を含んだ
全体をイメージして行動します。



いています。彼らは、会社が企業としてより社会に役に立つことに喜びを感じています。仕事が本当は好きではないのだけれど、仕方なくやっているという社員は、あまりハッピーではありません。仕事をしていても、良い同僚とは成り得ません。社内でアンケート調査をしたときや、アメリカの職業全般に関する調査というものを読んだときにも、それが分かります。

すべての社員にとって、生活に十分なお金を稼ぐというのは重要なことです。しかし、それだけでは、本当の意味で人が生きている目的、生きる意義を見出すのに十分ではありません。

仕事が好きで、会社が好きで、そして、自分がやっている行為が、貢献しているのだ、と感じられる社員は、より幸福感があります。もし、仕事に目的や意義が無く、会社が、ただより多くのお金や権力、より大きな名声などを欲するとき、そういう会社はしばしば社員を悪用したり、安全ではない商品を作ったりします。

目的意識を持つこと

ミッチェル 目的が本当にわかっているとき、真実の目的を持っているときには、自分だけでなく、他者や未来を含んだ全体をイメージして行動します。

冒頭でお話した馬の目隠しの喩えですけれど、真の目的を理解している人間は「目隠しを外して」いる状態なのです。その状態においては、自分だけでなく、他者を含んだ最善の良い選択のために行動します。そして満足度は高いです。そうした仕事にたずさわっている人には充実感があります。たとえば、報酬が少なくとしても、です。

ちよつと珍しいと思われるかもしれませんが、これ以上お金が必要だとは思っていません。これ以上お金を稼がないという意味ではありませんよ。製品をただで配ることは出来ません。(笑)

でも、お金だけが動機であったなら、こんなに一生懸命働く気にはならないです。私が熱心に働けるのは、大切だと思うパートナーのみなさまがいらっしやるからです。そして、より多くの人にピュアシナジーを使ってほしいと思っているからです。なぜならば、それがその人たちの助けになるということを、私は強く感じているからです。私は、有機栽培の農場が世界中にもっと増えていくことを望んでいます。そうしたこと、私にモチベーションを与えてくれ、私を引っ張ってくれているのです。

もちろん、私だって長い休みがほしいと思います。でも、この世の中には達成されるべきものが多い。だから、私は仕事しなければならぬ、そう思っています。

自分自身を専念させる

中川 日本人は、非常によく働くと世界的に知られています。しかし、残念なことに、世界を対象にした幸福度調査においては、日本人の幸福度というのは、経済的に非常に貧しい国よりも低いのです。

その原因の一つは、日本人が人生の

この世の中には達成されるべきものが多い。
だから、私は仕事をしなければならない、
そう思っています。

目的、本当の意味での生きる目的を認識せず、自分に問うことなく、ただ、外に対する反応として働いているからだと思います。是非、そういう気持ちも少しでも抱えている人のために、何かアドバイスがあればお願いします。

ミッチェル もし現在の仕事が、生きる目的意識をさほど呼び起こしてくれないのなら、仕事の他に何か興味のある分野を持つことが、助けになることもあります。いわゆる、趣味のようなもの、もしくは、人生の中のほかの事柄への興味を高めていくということです。これは、多くの方々にとって簡単ではないし、実用的でもないことは分かっていますけれども。

自分はどんな会社で働きたいのか、より多くの人々が疑問を持ち始めています。そしてごく最近ですが、金融危機や不況などの困難な状況の中で、そうした問題に気がついている人もいます。自分が、会社のために非常に多くのことを捧げてきたのに、仕事を失ったという現実、このことは、多くの人に大きな失望をもたらしました。彼らは、自分が専念している、献身的にやっただけの結果は得られていない、と感

じているのでしょうか。

大切なのは、単にハードな仕事をするとということではありません。それが秘訣ではないです。自分がいまやっていることに、意志の力を注がなくてはならないということです。

ただ、仕事をする、ただ、成果をあげるだけでは、決して満足感を得られないでしょう。満足感が得られるのは、何かに没頭している、何かに全身をかけたむけているからです。

例えば、菜園を作るにしても、実際に食べられるようになるには、何ヶ月も待たなければなりません。果樹園から、どれだけの果物が収穫出来るかという実利なことだけを考えて、ガーデンングという行為そのものを、楽しんでいなかっただけです。そして、自らがそこに注いだ日々の努力を自分自身で見えていなかっただけです。自分の仕事を本当の意味で楽しむということは出来ません。

もし、日々の仕事に没頭することができたなら、その人はやがて大きな変化を経験します。日常的な経験から得られる成果もあるでしょうし、金銭的な報いもあるかもしれません。なぜなら、彼らはより価値のある存在として

自分がいまやっていることに、
意志の力を向けなければ
いけないということです。

認識されるからです。

そうした人々は単なる仕事としてではなく、より深い目的意識とつながって、そして、献身的に行動しています。そのお陰で、仕事を通じて、より豊かな、より深いものを経験することが出来ているのです。

自分に対する『癒し』

中川 ありがとうございます。最後のセクションになるのですが、ミッチェルさんは、「自分自身を癒す」ということについて考えたことはありますか？

なぜ、このようなことを聞くかといえますと、自分が幸せでない、他者を幸せにするということは、非常に難しいということ、私は最近強く感じています。ミッチェルさんが沢山の人を幸せにしているということは、ご自身にも幸せをもたらさし、また、癒しをされているのかと思ったのです。

ミッチェル もちろん、私は、自分自身を十分にケアしなくてはなりません。良い食べ物を食べ、シナジーカンパニーの製品をしっかりと摂ったり、自分自身のための特別なフォーミュラー

自分のことだけを考え、
自分のことだけで一杯になってしまっていると、
本当の意味で幸せになるのは
大変難しいのです。

を作ったりします。また、エクササイズを行いますし、ストレッチもします。瞑想や祈りの時間ももちます。

与えることと幸せ

ミッチェル それから、私が見つけたのは、他の人たちに与えるということ、自分にも深い癒しをもたらす、ということ。その理由は二つあります。

私が、他の人に与えているとき、私は自分のことは考えない。私が、自分のことを考えていないとき、私は自分のことを癒すことができるのです。

逆に言えば、自分のことだけを考えると、自分のことだけで一杯になってしまっていると、本当の意味で幸せになるのは大変難しいのです。

愛する人を持つということ。恋人、夫婦であること、また家族がいるというのも、とても助けになります。

そして、私が悲しみを感じるときは、私が自分のことにとらわれて彼らに何かをしてあげることが止まっているときです。彼らのために何かをするということが、私にとって助けや癒しになるのです。

自分自身を「忘れる」こと

ミッチェル 私にとっては、瞑想も自分自身を忘れることのできる時間です。先ほどもお話ししましたけれど、どのようにしたら自分自身をチューニング、調整し続けることができるかが大切です。私にとっては、自然の中にあるということ、そして十分な沈黙の間をとるとのことです。

私の本来の性質は、出来れば人と接したくない、人前に出たくない隠遁者のようなものだと思っております。だから、ある程度まではその性質を尊重してあげなければなりません。そのためには、時々静かな時間が必要です。自分ひとりであるという時間も持たなければなりません。それが、私自身を深いところで力づけてくれます。そうした時間を持つことで再び、もう一度世界の中へ飛び込んで行くことができます。

中川 ありがとうございます。

ミッチェル こちらこそ、ありがとうございました。